

本報告書は、「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセスと題して、平成23年度事業活動を体系別にとりまとめたものです。そこには、多くのアーティストとの関わり、作品紹介を通じた人々の交流・対話、様々な反響と新たな感動など、この山口の地から発信できた、ひとつひとつの成果があります。

今後も、この施設でさまざまな人々が出会い、対話し、新たな情報芸術の創造と発信の拠点となることを目指し、事業展開を図ってまいります。ご覧いただき、ご感想、ご意見などをお寄せいただければと思います。

また、この場をお借りして、事業に関わってくださったアーティスト、ボランティア、体験・参加者、観劇者等すべての方々に、深く感謝申し上げます

平成24年9月
山口情報芸術センター
館長 足立 明男

目 次

平成23年度山口情報芸術センター収支決算	2
平成23年度山口情報芸術センター事業概要	3
[1] アート	4
[2] パフォーミングアーツ	12
[3] 教育普及	16
[4] ラボ	20
[5] シネマ	21
[6] 主な貸館事業	24
[7] 施設利用状況	25
[8] その他特記事項	25
主な関連新聞記事	26
(参考資料)山口情報芸術センターの活動成果	35

平成23年度 山口情報芸術センター収支決算

山口情報芸術センターの収支決算は、施設維持管理費と自主事業費に大別されます。
自主事業費は、次頁からの事業実施経費で、当財団会計処理規程によるものを各事業体系に合わせ整理、表現したものです。

1 施設維持管理費

（支出の部）

科 目	決 算 額 (円)
施設費	178,887,140

*主な支出は、
①市立図書館を含めた施設全体に係る電気・ガス・上下水道の光熱水料費(49,725千円)
②施設全体に係る清掃・空調設備等保守業務委託料、スタジオに係る舞台機構等の保守業務委託料などの保守管理経費(82,644千円)です。
*この財源は、山口市からの施設管理運営委託料、雑収入です。

2 自主事業費

（収入の部）

科 目	決 算 額 (円)	備 考	構成比
チケット収入等	6,428,900	演劇・ダンス等公演・映画に係る入場料収入	2.8
助成金収入	17,210,870	文化庁、(財)地域創造等による助成金	7.5
雑収入等	4,565,140	ワークショップ参加料、カタログ等販売手数料等、寄付金収入	2.0
補助金収入	199,765,976	山口市からの自主事業実施に係る補助金	87.7
合 計	227,970,886		100

*チケット収入は収入全体の2.8%ですが、演劇等公演のチケット料金の安価設定やアート事業展覧会の入場無料など、鑑賞機会の創出に主眼を置いた取り組みをしています。

（支出の部）

科 目	決 算 額 (円)	備 考	構成比
人件費	133,556,041	市派遣職員・専門員・副専門員・常勤職員等の人件費	58.6
アート	34,639,569	アート企画展等に係る経費	15.2
パフォーミングアーツ	17,990,408	ダンス・パフォーマンス公演等に係る経費	7.9
教育普及	5,917,369	ワークショップ、レクチャー等に係る経費	2.6
ラボ	4,402,945	研究開発事業、研修生受け入れ等に係る経費	1.9
シネマ	12,960,640	シネマ上映等に係る経費	5.7
共通事業費等	18,503,914	広報費、研修費、アーカイブ、旅費等の共通経費	8.1
合 計	227,970,886		100

平成23年度 山口情報芸術センター事業概要

1 事業の方向性 ～地方発信の時代へー <場>と<オリジナル>を重視する～

山口情報芸術センター(YCAM)は、メディアテクノロジーと身体をめぐる新しい芸術表現活動を追求する複合的文化施設です。身体表現の場であるシアター[スタジオA]、アート作品を製作・展示できるアートホール[スタジオB]、コンピュータによる作品制作が可能なラボ[InterLab／専任エンジニアが所属]が融合された、世界的にも稀な機能を有した施設です。

YCAMでは、アートの現場に参加する文化体験を通じて、理解発見力、分析力、表現力を伸ばすための、真のコミュニケーションの<場>を創りだすことに挑戦しています。そのために、従来の「展示・保存型」の文化施設ではなく、「この場で考え、コミュニケーションし、共同で作り出そう」という「制作・発信・コラボレーション型」の創造的文化環境づくりを目指しています。その中で新しい発見や共同作業の喜びを体験してもらうことを期待しています。

YCAMの事業は、<アート><シアター><教育・普及>を3つの柱としています。各分野とも施設の複合的特性を生かした、他の施設では生み出せないオリジナルのプロダクション(制作)を重要視し、地方から世界へ「オリジナルソフト」の発信を積極的に行っています。その成果は、すでに数々の国際フェスティバルでの受賞をはじめ、国内外からの数多くの展示・公演の招聘依頼などによって評価と信頼を得ています。情報共有だけでなく、文化施設同士のオリジナルソフトの交換から生まれる国際的信頼の蓄積は、YCAM＝山口市に新たなブランド力を生んでいます。また、日本の新しい人材・発想を世界に紹介することにも寄与しています。

YCAMの事業を通じて、世界的な創造的才能(アーティストや情報技術関係者)が訪れる<場>を山口市に作りだすことで、有形・無形の文化的蓄積が可能になるばかりでなく、新しい形の地域還元も目に見える形になっています。例えば、アート作品で開発利用されたコンピュータプログラムやアプリケーションソフトが、ラボの活動を共有することで、別の分野の教育材ソフトの開発に応用され、オリジナルの情報教育教材を生むケースなどです。これらは、データソフトの提案だけでなく、ワークショップの形で施行するパッケージツールとしての現場普及の側面もフォローし、地元地域へのさまざまな形での情報技術・リテラシー教育を還元していく「THINK GLOBAL, ACT LOCAL」を現実的に成功させています。このような形で生み出されたYCAMオリジナルソフトは、地元だけでなく、国内の他の地域の教育関係施設からも高い関心を寄せられています。

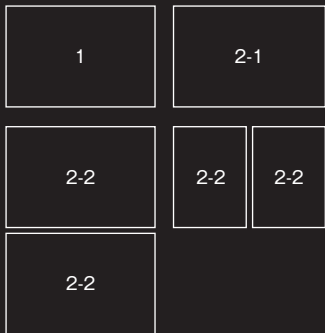
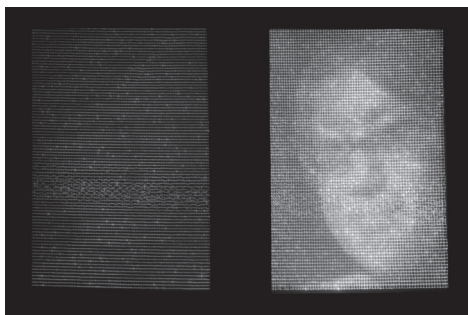
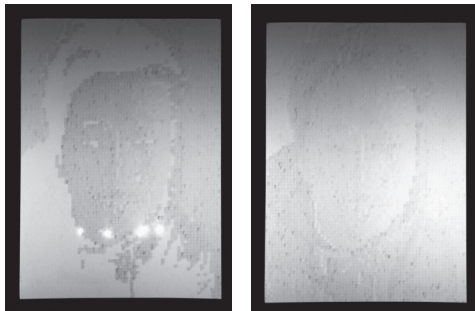
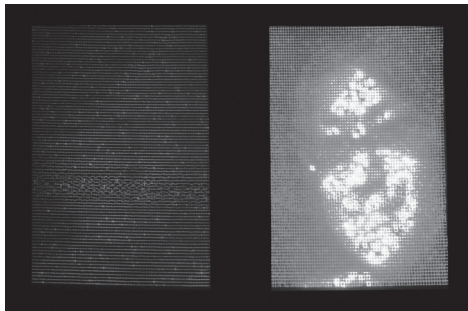
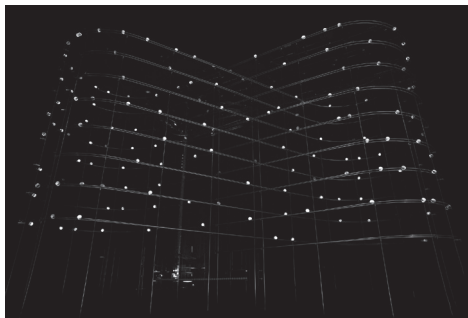
2 事業の概況

山口情報芸術センターは、開館8年目を迎え、平成23年7月に入館者数600万人を越えました。
主な活動としては、平川典俊による光・映像・音響によるインスタレーションとパフォーマンスが融合した新作「Beyond the sunbeam through trees-木漏れ日の向こうに」や、視線の動きだけで絵を描くことを実現した体験型プロジェクト「The EyeWriter」等の企画展示を実施するとともに、劇作家/演出家の平田オリザやロボット研究者の石黒浩により制作されたロボット演劇を上演するなど精力的な事業展開を行いました。

3 各事業総括表

事 業 区 分	事業数	入場者数（名）
[1] アート	9	27,555
[2] パフォーマンス	5	1,115
[3] 教育普及	14	1,090
[4] ラボ	3	82
[5] シネマ	15	5,671
[6] 貸館（件数）	32	4,791
合計	78	40,304

（備考）
①事業区分・事業数の詳細については、次頁からの個別事業(実施月順)の内容をご覧ください。
②入場者数について
・ホワイエ、ギャラリー等の展示については実数把握ができないため、入場者数に加えていません。



- 1 真鍋大度 + 石橋素新作インスタレーション「particles」
- 2-1 scopic measure#11 真鍋大度「electric stimulus to face」
- 2-2 scopic measure#12 真鍋大度 + 石橋素
「fade out - phosphorescence [フェード・アウト - フォスフォレッセンス]」
「fade out - photochromic [フェード・アウト - フォトクロミック]」
*YCAM 委嘱作品

1 真鍋大度+石橋素新作インスタレーション「particles」

開催日時:3月5日(土)~5月5日(木)
会場:スタジオB
入場者数:4,345名(内H23年度2,193名:入場無料)

アートからデザイン、広告、音楽に至る幅広い領域で、メディア技術を用いた多彩な活動続けるクリエイター、真鍋大度と石橋素両氏による新作を発表する展覧会。本展は、優れたメディア芸術の鑑賞機会を提供することを目的に、「文化庁メディア芸術祭巡回企画展」の一環として、YCAMと文化庁が共同で開催するものである。文化庁メディア芸術祭の受賞作家でもある真鍋大度+石橋素の新作を、YCAMがプロデュースして発表するとともに、第13回(2009)と第14回(2010)の文化庁メディア芸術祭の受賞作品の映像も上映。さらに、同時開催として、ユニークな発想と優れた技術で注目を集める彼らの作品「fade out」と真鍋氏の代表作ともいえる「electric stimulus to face」を同時期開催した。リサーチや研究、実験を重ねながら、メディアアートの可能性を探索し、躍進を続ける彼らの活動を総合的に紹介する初の本格的な個展を通じ、テクノロジーがもたらす新たな表現、メディア芸術の魅力を体験する機会を提供した。

<作品内容>

新作「particles」は、点滅する光源が空中を浮遊し、幻影的な残像を作り出すイルミネーション・インスタレーション。有機的な螺旋空間構造をもつレールの上を、LED(発光ダイオード/Light Emitting Diode)を内蔵した多数のボールが次々に通過し、LEDが様々なタイミングと色彩で発光することにより、光の粒子が浮遊し、空中に多様な形態を描き出した。アーティストは、レールの構造特性と通信制御技術を融合し、光の明滅を3次元空間としてデザインすることで、観客の位置によってもイルミネーションの見え方が変化する作品となった。LEDデバイスなどのハードシステムからプログラミングに至るまで、誰もが楽しめるアイデアと緻密な情報技術が融合した最新作として、大きな注目を集めた。

2 館内展示作品(協力:YCAM InterLab)

2-1 scopic measure#11 真鍋大度「electric stimulus to face」

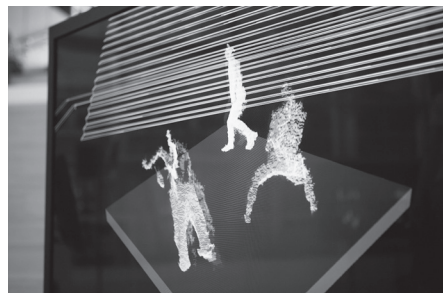
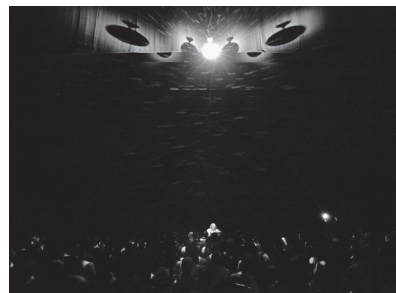
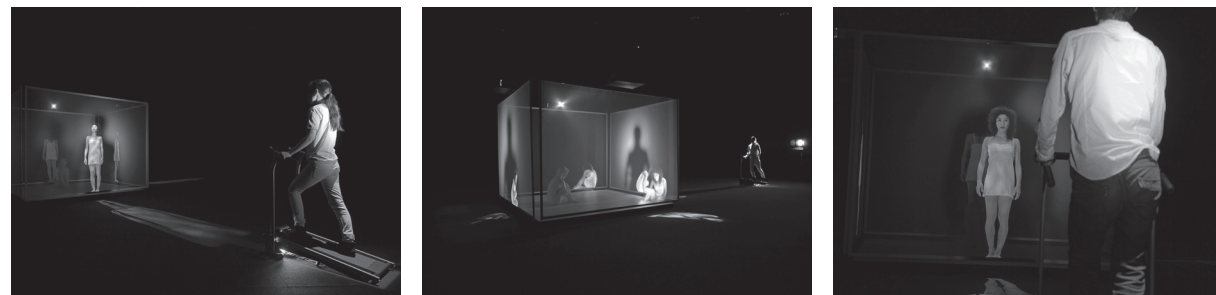
開催日時:3月5日(土)~5月5日(木)
会場:ホワイエ
入場者数:6,844名(#12も含む:内H23年度3,349名:入場無料)

データと身体の相互関係に着目し、洗練されたプログラミング技術と徹底したリサーチによって開発された真鍋大度の代表作ともいえる映像作品「electric stimulus to face」を紹介。人間の顔の表情が、意識や感情から生み出されるのではなく、サウンドから変換された電気信号によって自動的にコントロールされ、音楽のヴィジュアルライザーともいえる「表情」をつくり出すオリジナルのシステム「Face Visualizer」を収録した映像を、本展では、ホワイエに設置した巨大スクリーンと音響装置によって展開した。(メイキング映像や世界各所で開催されたワークショップの映像も同時展示)

2-2 scopic measure#12 真鍋大度+石橋素 「fade out - phosphorescence [フェード・アウト - フォスフォレッセンス]」 「fade out - photochromic [フェード・アウト - フォトクロミック]」*YCAM委嘱作品

開催日時:3月5日(土)~5月5日(木)
会場:ホワイエ

光を蓄えて発光する蓄光シートによるスクリーンに、紫外線レーザー光を照射することで、ビデオ映像とは全く異なる光学反応によるポートレートを描く装置「fade out」。紫外線カメラで撮影された来場者の画像データは、輝度分布が自動解析され、暗い部分から順に壁面の蓄光シートに照射される。それにより、シート上に残る光のグラデーションが、突如ポートレートとして認識され、眼前に浮かび上がってくる様子を体感できた。本展では、蓄光シートを用いた「fade out」オリジナルバージョンに加え、スクリーンの素材には、紫外光を当てると色がつき、光照射を止めると瞬時に元の無色透明に戻る、新しく開発された有機化合物「フォトクロミック化合物」を使用した最新バージョンを本展のために制作し、初公開(技術協力: 青山学院大学理工学部化学・生命科学科機能物質化学阿部二郎研究室、関東化学株式会社、伊藤光学工業株式会社)。「fade out」のオリジナルバージョンと並置して展示された。



3 平川典俊新作インスタレーション「Beyond the sunbeam through trees - 木漏れ日の向こうに」

開催日時:5月28日(土)~8月21日(日)
会場:スタジオB
入場者数:4,736名(入場無料)

光・映像・音響によるインスタレーションとパフォーマンスが融合した新たな視点からの芸術表現を提案する展覧会。ギリシャ哲学で提示されるあらゆる存在の基底となる原初的な概念<ピュシス>に言及しながら、身体性がもたらす時間や空間、意識の循環を、インスタレーション内のインタラクションとして提示した。観客からは、完成度の高い上質の映像インスタレーションだったなどの声が寄せられた。映像には、安藤洋子氏の表現を使用した。

【関連】sound tectonics#9

開催日時:5月29日(日) 14:30~
会場:スタジオA
入場者数:348名(入場料3,000円他)

展覧会オープニングイベントとして、バンク、ニューウェーブから電子音響、実験音楽まで多大な影響を与えたクラウトロック「NEU!」 「Harmonia」のミヒャエル・ローター氏が、ギター&ラップトップソロライブで登場。近年世界的再評価が急上昇するローターの最新サウンド、さらにローターに多大なリスペクトを寄せるジム・オルーク氏、砂原良徳氏がソロ参加するライブを実現した。

【関連上映】

開催日時:7月29日(金)~8月14日(日)
会場:スタジオC
入場者数:112名

現代美術家・平川典俊氏が演出したダンス映像と同氏がプロデュースした映画監督・新藤兼人氏へのインタビュー映像、これに関連する新藤兼人監督の3作品「原爆の子」「第五福竜丸」「ある映画監督の生涯」を上映した。

4 安藤洋子新作インスタレーション「Reacting Space for Dividual Behavior」

開催日時:5月28日(土)~8月21日(日)
会場:ホワイエ
入場者数:8,555名(入場無料)

安藤洋子氏がザ・フォーサイズ・カンパニー(ドイツ)で培ってきた、ダンサーの知覚と身体の問題を取り上げ、身体や空間に対する認識、身体に潜む動き、記憶、モチーフを発見するための実験的環境の創出を目指す体験型インスタレーションを発表。作品空間には、不可視のオブジェクトが設定されており、体験者は、実際の身体と仮想空間内のオブジェクトとの関係性を、音や映像によって意識します。身体の動きが音と反応することから、子供たちが舞台上を動きまわり、身体を動かし、様々な音を楽しそうに出していた光景、大人たちは、体幹を記憶させ、身体の動きを軌跡として残す作品を楽しむことができた。

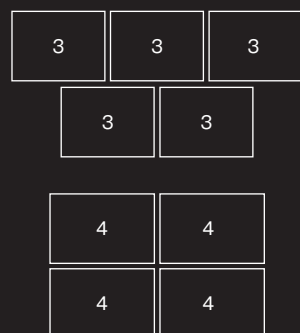
【関連】安藤洋子ソロパフォーマンス

開催日時:5月28日(土) 19:00~
会場:ホワイエ(入場無料)

展示作品空間内で行われる作家、安藤洋子氏本人のダンスパフォーマンスを開催した。

【関連】安藤洋子'Reacting Space for Dividual Behavior' ワークショップ

開催日時:8月20日(土) 13:00~
会場:ホワイエ
参加者数:19名(参加料1,000円)



- 3 平川典俊新作インスタレーション
「Beyond the sunbeam through trees - 木漏れ日の向こうに」
- 4 安藤洋子新作「Reacting Space for Dividual Behavior」



5	5
5	5
6	6
6	6

5 scopio measure # 13 黒川良一「rheo:5horizons」

6 LabACT-視線入力技術 vol.1
ザック・リーバーマン「The EyeWriter」

5 scopio measure # 13黒川良一「rheo:5horizons」

開催日時:9月17日(土)~11月13日(日)
会場:スタジオB
(入場無料)

コンピュータメディアと人間の関係性から生まれてくるアートシーンに注目し、先端情報技術を柔軟に使いこなす若手アーティストの作品を紹介するYCAM長期展示シリーズ。第13弾に世界最大規模を誇るメディアアートの祭典「Ars Electronica」デジタル・ミュージック部門においてゴールデン・ニカを受賞した映像／音響アーティスト黒川良一氏が、複数のスクリーンを用いた映像と多チャンネルのサラウンドシステムを駆使した緻密な音響表現によるインスタレーション作品は「空間と時間の彫刻」と評され、ミニマムと複雑系が共存するオーディオビジュアルの研ぎ澄まされた美しい世界を表現した。

【関連】sound tectonics#10

開催日時:9月17日(土) 19:00~
会場:スタジオA
入場者数:150名(入場料3,000円他)

サウンドと映像による精緻な表現を追及する黒川良一氏、立体音響と鮮烈な音楽性で注目を集めるevala氏、さらに、実験的な音楽を展開する新進気鋭のアーティスト蓮沼執太氏の3組が集結。黒川氏は「rheo:5horizons」の原点になったパフォーマンススペース「Rheo」を日本初公開。高精度の3面プロジェクションを駆使しサウンドと映像が完全同期したミニマルかつ濃密な世界観を生み出した。evala氏は8.4チャンネルのオリジナル3次元立体音響的パフォーマンスにより、音響クラスターともいえる音の繊細な動きや混成を生成する実験的コンサートを展開。さらに5人のメンバーからなる蓮沼執太チームは、多彩な楽器とヴォーカルを空間に配したアンサンブルミュージックを披露した。

6 LabACT-視線入力技術vol.1 ザック・リーバーマン「The EyeWriter」

開催日時:10月1日(土)~12月25日(日)
会場:ホワイエ
入場者数:4,137名(入場無料)

ALS(筋委縮性側索硬化症)により身体が麻痺したアメリカ人アーティストが再び絵を描けるようにと、世界各地から作家やエンジニア等が参加してシステムを開発し、目の動きだけで絵を描くことを実現した体験型プロジェクト。観客は、視線認識のためのキャリブレーションの後、視線でグラフィティを描いたり、ゲームをしたりと、子供から大人までが、視線入力技術を利用して楽しんだ。その他、視線の動きによって、視覚の跳躍を体験することができる作品「EyeWalker」、体験者の視線の動きを使って、文字書体(フォント)をつくり出す作品「eyeFont」の新作展示を行った。

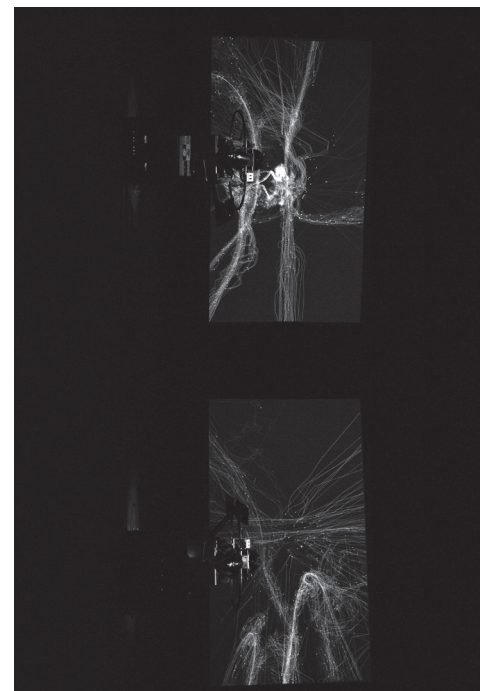
【関連】シンポジウム「The EyeWriterをめぐってー開発と共有の先に見えるもの」

開催日時:10月1日(土) 15:30~18:00
会場:スタジオA
入場者数:49名(入場無料)

ザック・リーバーマン氏、エキソニモ、田中良治氏(セミトラ)、安藤英由樹氏(大阪大学准教授)を招き、メディアがもたらすアート表現の発展性、福祉貢献を含む社会的な意義について討議が行われた。

【関連】YCAMオリジナルワークショップ「Eye2Eye(アイ・トゥ・アイ)」

開催日時:10月1日(土)、11月6日(日)、12月4日(日) 13:00~
会場:スタジオA
参加人数43名(参加料500円)



7 LabACT-視線入力技術vol.2 三上晴子「Eye-Tracking Informatics～視線のモルフォロジー」

開催日時:12月4日(日)～3月25日(日)
会場:スタジオB
入場者数:3,513名(入場無料)

本作は、2人の体験者が、3次元仮想空間内に可視化された自身の視線の動きを通じて、コミュニケーションや空間内のナビゲーションをおこなっていくという、三上晴子氏の90年代の代表作のひとつを、最新の技術動向を反映しYCAMで再制作したもの。ビジュアルやサウンド、ハードウェアなどあらゆる面で、より精緻かつダイナミックに生まれ変わった本作を通じて、視線によるコミュニケーションや、自らの視線の軌跡が作り出すかつてない造形空間を楽しむことができた。

8 sound tectonics installation #3/#4

開催日時:9月17日(土)～12月18日(日)
会場:中庭
(入場料無料)

コンサートと同時開催となる今回の「sound tectonics installation」では、「sound tectonics #10」の出演アーティストであるevala、黒川良一両氏に、新作サウンドインスタレーションを委嘱し、2カ所の中庭それぞれに作品を展示した。立体的で高密度なサウンド表現と、大規模な立体音響インスタレーションで国際的に高く評価されるevala氏は、音響の反射と混合、自律生成のプロセスによる未知の音響的環境を作り出した。

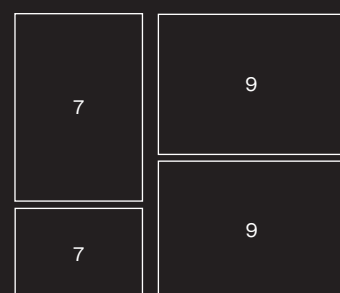
#3evala「void-inflection」新作 | YCAM委嘱作品

#4黒川良一「Remapped extract of 'celeritas'」改訂新作 | YCAM委嘱作品

9 メディアレクチャーシリーズ ダイアログ&コンサート「2050年から見る環境と芸術の未来」

開催日時:12月16日(金) 19:00～
会場:スタジオA
入場者数:413名(入場料2,500円他)

社会や環境との関わり方を新たな視点から見つめ直し、芸術と文化の創造を実践するYCAMの10周年を見据え、記念事業におけるアーティストックディレクターを担う坂本龍一氏から、未来・次世代に向けたメッセージを、世界へと発信するもの。文化人類学者、竹村真一氏をゲストに迎えた対談では、「2050年から見た文明」を主題に、未来に向けた社会と環境について、長期的な視点で、私たちはどのように環境と向き合い、何を残していくべきかについて語った。また、Sachiko M(サチコ・エム)氏との初の共演となるコンサートでは、ピアノとサインウェイヴによる即興演奏を行った。観客からは、大きな視点ではあったが具体的な事例が聞けた等、多くの感激の意見をいただいた。



- 7 LabACT- 視線入力技術 vol.2 三上晴子
「Eye-Tracking Informatics ～視線のモルフォロジー」
- 9 メディアレクチャーシリーズ
ダイアログ&コンサート「2050 年から見る環境と芸術の未来」

PERFORMING ART

[2] パフォーミングアーツ



1 アンドロイド演劇「さようなら」/ロボット演劇「働く私」

開催日時:6月18日(土) 19:00~ 19日(日) 14:00~
会場:スタジオA
入場者数:345名(入場料1,300円他)

平田オリザ氏(劇作家/演出家)と石黒浩氏(ロボット研究者)によって制作された、アンドロイド(ジェミニイドF)演劇「さようなら」と、ロボット演劇作品「働く私」を同時上演。アンドロイドの精巧なつくり鑑賞者は驚き、またロボットと俳優との共演に、鑑賞者からは初めての鑑賞体験であった!やコミュニケーションについて考えさせられた等の意見が寄せられた。また、公演後には、両者を迎えてのトークイベントを行い、演劇にアンドロイドやロボットが共演する新たな視点等についても考え、またロボットを近くで体験するイベントを開催し、親子連れの観客で賑わった。

2 映像で見る世界のダンスvol.2 「特集 土方巽」

開催日時:9月23日(金・祝)~25日(日)
会場:スタジオC
入場者数:243名(入場料700円他)

上映作品:「肉体の叛乱」「痲瘡譚」「陽物神譚」「夏の嵐 燐機大踏鑑」
舞台芸術の歴史と、映像によって語られる身体表現の魅力を紹介する上映シリーズ「映像で見る世界のダンス」2回目。今回は、今もお世界中の芸術家に影響を与え続ける舞踏家、土方巽氏。暗黒舞踏の始祖として、日本のみならず世界中のダンサーや芸術家に今なお影響を与え続ける土方巽を映像から紹介した。

【関連】レクチャー「土方巽一言葉と身体」

開催日時:9月24日(土) 13:35~
ゲスト:安藤礼二(文芸評論家)
入場者数:155名(トークイベント含)

【関連】トークイベント「人間土方巽(カマイタチの跋扈)」

開催日時:9月24日(土) 15:50~
ゲスト:磨赤兒(大駱駝艦主宰/舞踏家/俳優)
司会:宇野萬(舞踏家)

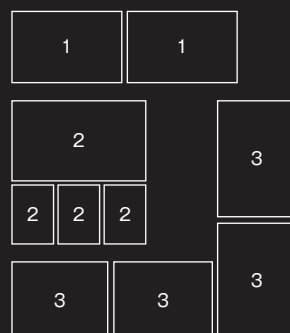
3 佐藤利穂子「SHE-彼女」

開催日時:12月11日(日) 14:00~
会場:スタジオA
入場者数:132(入場料2,500円他)

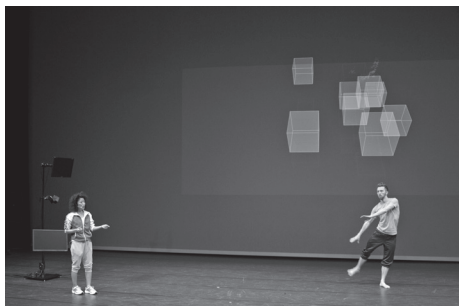
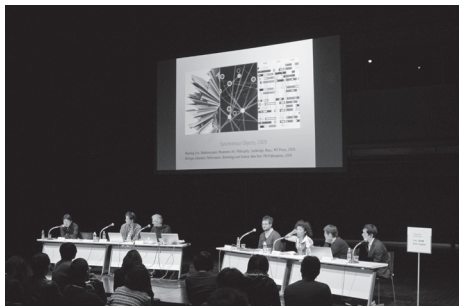
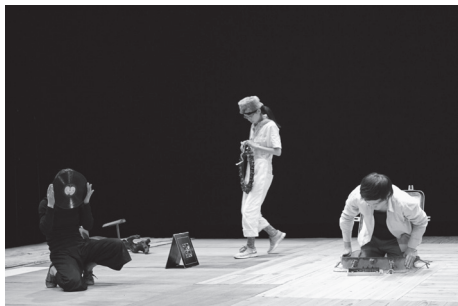
仏・伊のダンス雑誌「Ballet2000」が選ぶ2005年度年間最優秀ダンサー賞に輝くなど、日本のみならず世界各国からも注目される佐藤利穂子氏のソロダンス作品を上演。ディレクションは振付家・ダンサーとして、さらには美術家・映像作家としても国際的に活躍するアーティスト勅使川原三郎氏が行った。本作品は佐藤氏の豊かな身体性から生まれる、空間にとけ入るような感覚、質疑を自在に変化させるかのような独自の身体表現とノイズと静寂、語りと音楽、映像と光による研ぎ澄まされた空間造形が強烈な美を紡ぎ出していく作品であった。観客は女性の割合が高く、身体が美しい、音響・光・身体のマッチングが素晴らしい等の声が寄せられ、世界的なダンスの動きを身近で観る機会が提供できた。

【関連】佐藤利穂子ダンスワークショップ

開催日時:11月20日(日) 13:30~
会場:スタジオA
参加者数11名(参加料500円)



- 1 アンドロイド演劇「さようなら」/ロボット演劇「働く私」
- 2 映像で見る世界のダンス vol.2 「特集 土方巽」
- 3 佐藤利穂子「SHE- 彼女」



4 山下残「庭みたいなもの」

開催日時:1月28日(土) 19:00~ 29日(日) 14:00~
会場:スタジオA
入場者数:156名(入場料2,500円他)

本作は、優れたアーティストによる作品創作と、パフォーミングアーツの実験的な作品を観賞する機会を提供しようと、YCAMとAI・HALL(兵庫)、STスポット(横浜)の3館が連携し、共同プロデュースをすることによって実現した意欲作。美術家カミイケタケヤ氏による壮大な舞台美術とともに、振付家／ダンサーの山下残氏のパフォーマンスと様々なモノが、次々と登場する本作には、コミュニケーションにおける言葉と身体の衝動がユーモラスに描き出されていた。終演後には、ポストトークやアフターアワーカフェを行い、作品や作家について深く理解する機会を提供した。

【関連】オリジナルワークショップ「コトバ身体」

開催日時:1月21日(土) 13:00~ 22日(日) 13:00~
会場:スタジオA
参加者数10名(参加料1,500円)

5 シンポジウム「フォーサイス・ダンス・スタディ・エクスチェンジ」

開催日時:3月3日(土) 13:30~
会場:スタジオA
出演:ベンジャミン・シュローダー(コンピューター科学研究者)、安藤洋子(ダンサー／ザ・フォーサイス・カンパニー)、ライリー・ワッツ(ダンサー／ザ・フォーサイス・カンパニー)、池上高志(複雑系研究者／東京大学広域科学専攻教授)、ヨハネス・ピリンガー(lienNation Co振付家、アーティスティック・ディレクター／ブルネル大学パフォーマンス・テクノロジー教授)、YCAM InterLab
入場者数:84名(入場無料)

YCAMでは、ダンスとメディアテクノロジーの新たな可能性を模索することを目的に、現代の身体表現全般に多大な影響を与える振付家ウィリアム・フォーサイスの思想を基本コンセプトとするダンス創作のツールの研究開発プロジェクト「Reactor for Awareness in Motion」を2年間に渡り実施している。今回、ゲストスピーカーを交えて、このプロジェクトの中間報告を行うとともに、ダンスとテクノロジーについての歴史的な事例との比較、そして、人間の身体メカニズムや知覚システムからみたダンスという視点から、日米双方の研究開発チームの試みについて読み解き、身体表現研究の最前線を紹介した。

4

5

4

5

4

5

4 山下残「庭みたいなもの」

5 シンポジウム「フォーサイス・ダンス・スタディ・エクスチェンジ」

[3] 教育普及

1 自主事業関連教育普及事業

●真鍋大度+石橋素新作インスタレーション「particles」ギャラリーツアー

開催日時: 3月12日(土)、19日(土)、20日(日)、21日(月・祝)、4月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)、29日(金・祝)、30日(土)、5月1日(日)、3日(火・祝)、4日(水・祝)、5日(木・祝) [全18回]
参加者数:215名(内H23年度152名:参加無料)

真鍋大度+石橋素新作インスタレーション「particles」展に関連したギャラリーツアー
世界中から注目を集める気鋭のクリエイターの新作を紹介し、彼らの活動の根底にある方法論や思考プロセスに触れることができた。最先端の技術を使った意欲的な挑戦と、それが社会に与える影響を、参加者同士のディスカッションを通じて考えた。

●平川典俊「Beyond the sunbeam through trees—木漏れ日の向こうに」／
安藤洋子「Reacting Space for Dividual Behavior」
ギャラリーツアー

開催日時:6月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日)、25日(土)、26日(日)、7月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)、30日(土)、31日(日)、8月6日(土)、20日(土) [全16回]
参加者数:134名(参加無料)

「Beyond the sunbeam through trees—木漏れ日の向こうに」展と「Reacting Space for Dividual Behavior」展に関連したギャラリーツアー。
参加者も作品の一部として参加することによって、次第に移り変わる空間や時間の変容を、自らの身体で知覚し動きを生み出すエネルギーそのものを体感。また、自分の身体の動きやイメージはどこから生まれてくるのかといった問いに対して、実際に身体を動かしながら参加者同士で様々な解釈を交換、共有し作品の新しい見え方、発見に出会えた。

●安藤洋子‘Reacting Space for Dividual Behavior’ ワークショップ

開催日時:8月20日(日) 13:00～
会場:ホワイエ
参加者数:19名(参加料1,000円)

新作インスタレーション「Reacting Space for Dividual Behavior」のアーティスト安藤洋子氏を講師に、ザ・フォーサイズ・カンパニー所属のダンサー、アマンシオ・ゴンザレス氏をゲストに迎え、新作インスタレーションを用いた身体ワークショップを開催。関東、関西、九州各地域からの参加があった。

●LabACT-視線入力技術vol.1
ザック・リーバーマン「The EyeWriter」ギャラリーツアー

開催日時:10月8日(土)、9日(日)、10日(月・祝)、15日(土)、16日(日)、22日(土)、23日(日)、29日(土)、30日(日)、11月3日(木・祝)、5日(土)、6日(日)、12日(土)、19日(土)、26日(土)、12月10日(土)、17日(土)、18日(日) [全18回]
参加者数:84名(参加無料)

LabACT-視線入力技術vol.1「The EyeWriter」展に関連したギャラリーツアー。
参加者は、視線でグラフィティを描いたり、ゲームをする「The EyeWriter」、視覚の跳躍を体験することができる作品「EyeWalker」、体験者の視線の動きを使って、文字書体(フォント)をつくり出す作品「eyeFont」を体験することにより表現におけるさらなる可能性を持った視線入力技術を深く読み解くことができた。



●佐藤利穂子ダンスワークショップ

開催日時:11月20日(日) 13:30～
会場:スタジオA
参加者数11名(参加料500円)

世界的なダンサー佐藤利穂子を講師に迎え、身体の重みを感じたり、身体の力を抜く方法を探したりと、普段私たちが意識することのない自身の身体と向き合い、「自分の身体を知ること」を体験。新たな表現の習得を目指すダンス経験者はもちろん、ダンス経験の無い方にも参加いただけるワークショップとなった。

●LabACT-視線入力技術vol.2
三上晴子「Eye-tracking Informatics ～視線のモルフォロジー」
ギャラリーツアー

開催日時:12月10日(土)、17日(土)、18日(日)、1月7日(土)、8日(日)、14日(土)、15日(日)、2月11日(土・祝)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)、3月17日(土)、18日(日)、25日(日) [全16回]
参加者数:102名(参加無料)

LabACT-視線入力技術vol.2「Eye-tracking Informatics ～視線のモルフォロジー」展に関連したギャラリーツアー。
作品に触れることにより、メディアテクノロジーを基盤にしたラボの研究がどのような社会的な影響、公共性を持ちえるのか、多様な発展的な貢献が可能なのかを問いかける機会を提供し、参加者同士のディスカッションを通じて考えた。

2 YCAMオリジナルワークショップ

●映画を2回観る会

Vol.1短編アニメーション 作品:「プロジェクト」「ストリート・ミュージック」「おとぎ話」「幽霊船」「黒ニャゴ」
Vol.2短編映画 作品:「RIGHT PLACE」「一音符の男」
Vol.3映画について言葉で語ること ナビゲータ:小崎哲哉 作品:「Film」
開催日時:5月8日(日)、7月23日(土)、3月20日(火・祝) 13:30～
会場:スタジオC
参加者数:83名(参加料300円他)

作品を鑑賞して「面白かった」「つまらなかった」という素朴な感想だけにとどまらず、作品について自分なりに言葉を尽くして語ったり、意見を交換することは、何かを制作することと同じくらい創造的で知的な活動。映画を鑑賞した後、鑑賞者同士の視点の交換や解説を踏まえてもう一度鑑賞することで、作品の魅力、新しい世界を体験することができた。

●Eye2Eye(アイ・トゥ・アイ)

開催日時:10月1日(土)、11月6日(日)、12月4日(日) 13:00～
会場:スタジオA
参加人数43名(参加料500円)

「The EyeWriter」の視線入力ソフトウェアを応用したワークショップ。自らの視点が可視化されたり、視線の軌跡を他者と共有したりと、簡単なゲームを通じて「視線」から生まれる様々なコミュニケーションを体感した。マーケティングや心理学、経済学においても関心が高まる「視線」について、その多様な可能性を考えた。県内外から研究者や学生など多くの参加があり、言語聴覚士等の福祉関係者も複数参加され、医療や介護現場でのコミュニケーション手段として活用について関心が集まった。



●コトバ身体

開催日時:1月21日(土)、22日(日) 13:00～
会場:スタジオA
参加者数10名(参加料1,500円)

山下残氏の創作手法である「からだとことばの関係」に注目し、その視点を体験するYCAMオリジナルワークショップ。言葉から発想するダンス、ダンスから生まれる言葉について考え、身体を動かしながら、私たちの日常にあるコトバと身体の関係に迫り、独自のエクササイズと考察によって、普段は意識しない「身体と言葉」の関係性について発見。言葉を身体の動きに、身体の動きを言葉に置き換えてみると、そこには他者との解釈のズレやおもしろさが見えてきます。本ワークショップでは、独自に開発したソフトウェアを活用し、参加者の動きを分析。「言葉と身体」をめぐるあらゆる関係性を俯瞰する視点と、「身体と言葉」を再定義・再確認する視点をもたらした。



●夏休みYCAM探検クルーズ

開催日時:8月13日(土)、14日(日) 14:00～
会場:YCAM館内
参加者数:両日合計85名(参加無料)

施設の舞台裏を見学し、YCAMの特徴と魅力に迫る夏休み特別ツアー。YCAMの特徴を生かし、本イベントでは、オリジナル作品の制作や研究開発をおこなう現場や作品に隠された技術や制作の様子について、実際に働いているスタッフが解説を行い、また、参加者だけで実際にインカムを使い、サインを出し合い、舞台作品の「本番」を実施することにより、複雑な舞台作品の裏側を意識してもらうことができた。市内から親子連れでの参加が多く、夏休み企画らしい客層になった。

3 meet the artist2011「ライブラリーラジオをつくろう」

●事業概要

市民とアーティストが年間を通して創造的な活動に取り組むmeet the artistシリーズの2011年度版。単発のイベントではなかなか経験できない、アーティストとの創造的な試行錯誤や問題解決のプロセスに立ち会うことで、そのユニークな考え方に触れられるほか、アーティストの視点を通して、日常生活を送っている街を改めて捉え直す機会を提供。今年の活動ではメディア論研修者である桂英史氏(東京藝術大学大学院映像研究科教授)を講師に招き歴史上重要な「ラジオ」というメディアを取り上げ、公共と個人、放送と通信、バリアフリーといった観点から、現代的に捉え直す試みを実施。公共サービスとしての図書館を参照しつつ、オーディオブックをはじめとする多様な電子媒体に着目し、ミニFM局をYCAM内に設置した。1年間にわたる活動の集大成となる公開イベントを開催した。



●アーティストレクチャー「ライブラリーラジオ宣言」

開催日時:4月24日(日) 14:00～
会場:ホワイエ
参加者数:25名(参加無料)

講師の桂英史氏がこれまで取り組んできた公共施設のコンサルティングや、アーカイブ活動について解説するレクチャー。ラディカルな姿勢で文化芸術の公共性や可能性を押し広げてきた研究者が、YCAMに小さなラジオ局をつくり番組製作を通じて、1年間、メディアをつくっていく楽しさについて提案した。



●活動報告会

開催日時:2月4日(土) 14:00～
会場:BIT THINGS
参加者数:20名(参加無料)

「meet the artist2011」が運営するミニFM局を開設し山口市立中央図書館(YCAM内)で音楽等を放送するまでに至った活動報告を行った。

●トーク&ライブ公開収録「Library Radio 311 Recordings」

開催日時:3月11日(日) 17:00～
出演者 第一部「トーク」桂英史(東京藝術大学大学院映像研究科教授)、
蓮沼執太(音楽家)、会田大也(YCAM)
第二部「ライブ」蓮沼執太チーム、detune、柴田聡子
会場:スタジオA
参加者数:82名(参加無料)

1年間の長期ワークショップで市民コラボレーターが桂英史氏とともに、「図書館で聴けるラジオ」をつくってきた集大成を総括するトークと、ミュージシャンを招いての音楽ライブを公開収録イベントとして開催。録音の内容を「ライブラリーラジオ」で放送を行った。



4 創作環境

●「tecpot - 学べて創れるメディア工房」

開催日時:7月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)、18日(月・祝)、30日(土)、31日(日)、9月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)、19日(月・祝)、24日(土)、25日(日) [全16日] 13:00～19:00
会場:2Fギャラリー
参加者数:240名(参加無料)

市民が主体的に「つくる+まなぶ+つながる」ことが出来るサードプレイス(自宅、学校や職場と違う第三の場所)として創作環境を提供。映像・音楽制作、プログラミング、電子工作、デザイン、ソフトウェア教育など6つのカリキュラムを実施し常駐している教育普及スタッフやサポートスタッフが、利用者の興味や目的、創作内容にあわせて個々にサポートするため、初心者でも段階的に理解し技術の使い方だけに留まらずコンピューターを活用した創作活動、応用方法、メディア表現の魅力を発見することができた。



1 研究開発事業

●YCAM Guest research project vol.1

先端的なテーマをもつアーティスト／技術者を研究員として招聘し、YCAM InterLabと共同で研究開発をおこなう滞在研究プログラム。今回は、ソフトウェアの開発や、メディアアートに関する国際的なプロジェクトで活躍するニューヨーク在住の技術者／アーティストを招聘し、約3ヶ月間にわたりYCAMで滞在研究した。成果としては、プロジェクターによる大規模な映像投影に必要とされる技術「キャリブレーション（画像の投影位置や色を補正する技術）」を実現するためのソフトウェア「ProCamToolKit（プロジェクタカメラ・ツールキット）」の開発を行い、開発された技術は、地域でのイベントでも活用された。

●YCAM InterLab Camp vol.2 -TECHTILE-

今回は未開拓な研究分野「触覚」をテーマに、慶応義塾大学と連携、2カ年をかけ、リサーチ&ディベロップメントを行う。国内の主要な大学でワークショップを行いながら研究を進め、8月にはYCAMにおいてシンポジウムを開催し、触覚にまつわる技術とデザイン、その表現方法の現在形を考えるとともに、YCAMと研究者による共同開発のビジョンの紹介、研究報告を行った。

○シンポジウム「TECHTILEという考え方:触覚を表現する・触覚で表現する」

開催日時:8月21日(日) 14:00～
会場:スタジオA
参加人数:82名(参加無料)

○出張ワークショップ

多摩美術大学、神奈川工科大学、金沢美術工芸大学、香川大学、九州大学



2 研修生事業

世界中から1人ないしは2人をYCAMに研修生として呼び、共に研究、制作を行う企画。YCAMスタッフの価値観、思考の視野を広げること及び新たな人材発掘を目指した。本年度は、香港、オーストラリアから各1名受け入れ、約2週間～2ヶ月の研修を実施した。

1 コミュニティシネマ山口

会場:スタジオC
入場者数:1,918人

上映作品:
4月 「ベルシャ猫を誰も知らない」「エルトボ」「ホーリー・マウンテン」
「ハーブ&ドロシー アートの森の小さな巨人」「バスキアのすべて」
「クリスマス・ストーリー」「嘘つきみーくんと壊れたまーちゃん」
5月 「玄牝ーげんびんー」「天安門、恋人たち」「スプリング・フィーバー」
6月 「トスカーナの眞作」
8月 「ブンミおじさんの森」「ファンタスティックMr.FOX」「100,000年後の安全」
9月 「東京公園」
10月 「悲しみのミルク」「軽蔑」
11月 「ジャライノール」「神々と男たち」
12月 「イリュージョニスト」
1月 「ミラル」「プリューゲルの動く絵」
3月 「Peace」



プリューゲルの動く絵
© 2010, Angelus Silesius, TVP S.A

2 Select CINE TECTONICS

映画を芸術作品として捉え、世界の様々な地域の古典から新作まで、芸術史及びメディア史的視点から見て、意義のある映画作品を紹介するシリーズ。ドキュメンタリーも含んだ普段山口では上映される機会がまれな様々な映画作品を、映画作家やテーマ別にセレクトして上映する。

●Select CINE TECTONICS=14「荒川修作+マドリン・ギンズ作品上映」

開催日時:6月3日(金)～5日(日)
入場者数:104名

上映作品:「芸術と生活と意見」「死なない子供、荒川修作」「Why Not」「For Example」
ドキュメンタリーや貴重な映像作品、トークイベントから蘇る芸術家の姿。2010年5月に急逝した荒川修作と、マドリン・ギンズの活動を振り返る。



©2010rtapikcar Inc.

○荒川修作+マドリン・ギンズ作品上映トーク・イベント

開催日時:6月4日(土)
入場者数:30名

ゲスト:山岡信貴(映像作家) 司会:阿部一直(YCAM キュレーター)
「死なない子供、荒川修作」を監督した山岡信貴氏をゲストに迎えたトーク・イベント。

●Select CINE TECTONICS=15「ハルーン・ファロッキ監督作品上映」

開催日時:10月21日(金)～23日(日)、10月26日(水)～30日(日)
入場者数:200名

上映作品:「消せない火」「見ての通り」「この世界を覗くー戦争の資料から」「ルーマニア革命ビデオグラム」「労働者は工場を去って行く」「静物」「監獄の情景」「隔てられた戦争」「リスクへの挑戦」
映画、ドキュメンタリー、現代美術といったフレームを越境し、労働、生産、機能といった問題に着目する作家、ハルーン・ファロッキ。代表的な作品9本と、ファロッキが出演する作品「アメリカ(階級関係)」を参考上映。

●Select CINE TECTONICS=16「セルゲイ・ボドロフ作品上映」

開催日時:1月13日(金)～15日(日)
入場者数:51名

上映作品:「自由はパラダイス」「MONGOL」「ヤクザガール 二代目は10歳」
ロシアの巨匠セルゲイ・ボドロフ監督の初期のロードムービーから、近年の日本人俳優を起用した歴史大作、コメディまで多彩な3作品を上映。

3 特集

●映画の國 名作選I イタリア編

開催日時:5月3日(火)～5日(木)

入場者数:147名

上映作品:「ロベレ將軍」「フェリーニの道化師」「暗殺の森」

世界中のクラシックの名作や日本未公開の傑作を上映するシリーズ。第1段はイタリア映画のマエストロたちによる究極の3本を上映。



●シネマ・ノーヴォ特集

開催日時:5月19日(木)～22日(日)

入場者数:118名

上映作品:「切られた首」「夫婦間戦争」「マクナイーマ」「リオ40度」「乾いた人生」

1960年代のブラジルで、映画愛好家たちの間で一世を風靡した“シネマ・ノーヴォ”。反ハリウッドモデルを特徴とする伝説の作品群がよみがえる。

●EU FILM DAYS 2011

開催日時:6月23日(木)～26日(日)

入場者数:112名

上映作品:「ドウスカ」「ツイステッド・ルーツ」「ドライブ」「それでも恋するバルセロナ」「アタ」「シックス」ヨーロッパ映画の多様性と質の高さを紹介するユニークな映画祭。

●ジャン＝リュック・ゴダール監督特集

開催日時:7月1日(金)～3日(日)、8日(金)～10日(日)、16日(土)～18日(月・祝)

入場者数:506名

上映作品:「シャルロットとジュール」「勝手にしやがれ」「はなればなれに」「気狂いピエロ」「ウイークエンド」「フレディ・ビュアシュへの手紙」「右側に気をつけろ」「JLG／自画像」「フォーエヴァー・モーツァルト」「映画史特別編 選ばれた瞬間」「ゴダール・ソシアリズム」ゴダールという瑞々しい歴史。終章のない、映画による思考。映画／音響の軌跡をたどる、ゴダール作品11本を上映。

○トーク・イベント「ゴダールがこんなにわかっていいかしら？」

開催日時:7月3日(日)

入場者数:102名

ゲストに青山真治氏(映画作家／小説家)を迎え、トークイベントを開催。

●文化庁優秀映画鑑賞推進事業「スクリーンに輝く名優たち」

開催日時:9月8日(木)～11日(日)

入場者数:259名

上映作品:「暁の脱走」「隠し砦の三悪人」「雪之丞変化」「悪名」

公立の文化施設と文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンターが連携・協力し、毎年実施している事業。映画史に遺る個性豊かな男優たちの魅力が溢れる作品を紹介。

●ブリート・バルン傑作選

開催日時:9月17日(土)～19日(月・祝)

入場者数:42名

世界中のアニメーションファンが愛してやまないエストニアのアニメーション作家ブリート・バルンの傑作と、バルン自身に関するドキュメンタリー全10作品を一挙上映。

●イエジー・スコリモフスキ監督特集

開催日時:11月23日(水・祝)～27日(日)

入場者数:134名

上映作品:「エッセンシャル・キリング」「バリエラ」「身分証明書」「不戦勝」「手を挙げろ!」

1960年代以降、数々の意欲作を発表した監督、イエジー・スコリモフスキ。監督の長編デビュー作を含む60年代の傑作4本と最新作を上映。

●フレデリック・ワイズマンのすべて

開催日時:11月30日(水)～12月4日(日)、7日(水)～11日(日)、14日(水)～18日(日)

入場者数:302名

上映作品:「チチカット・フォーリーズ」「ボクシング・ジム」「法と秩序」「病院」「エッセネ派」「福祉」「肉」「シナイ半島監視団」「軍事演習」「モデル」「セントラル・パーク」「BALLET アメリカン・バレエ・シアターの世界」「メイン州ベルファスト」「DVDメスティック・バイオレンス」「最後の手紙」「DV2」デビュー以来、「現代社会の観察者」として独自の映像表現を展開し、40数年に渡り、学校、病院、議会などの施設や組織を撮り続けてきたフレデリック・ワイズマンの傑作群16作を一挙上映。

●ヴィム・ヴェンダース監督特集

開催日時:1月6日(金)～9日(月・祝)

入場者数:142名

上映作品:「バレルモ・シューティング」「アメリカの友人」「都会のアリス」「まわり道」「さすらい」

写真、音楽、ロードムービー、いくつものキーワードで語られることの多い、ヴェンダースの傑作5本を上映。

●松竹キネマ90周年記念

開催日時:2月3日(金)～5日(日)、10日(金)～12日(日)、17日(金)～19日(日)、24日(金)～26日(日)、3月2日(金)・4日(日)、9日(金)・10日(土)、16日(金)～18日(日)

入場者数:854名

上映作品:「愛染かつら」「醜聞」「集金旅行」「君の名は」「按摩と女」「秋津温泉」「ゼロの焦点」「山河あり」「東京暮色」「安城家の舞踏會」「自由学校」「正義派」「奥様に知らすべからず」「気違い部落」「バナナ」「本日休診」「悪女の季節」「好人好日」「現代人」「もず」

2010年に90周年を迎えた松竹を記念して「女優王国」と謳われた松竹を彩るスター女優たちの代表作、そして、小津安二郎と木下恵介と並び、松竹の「三大巨匠」と称された映画監督・渋谷実の傑作を一挙公開。

4 真夏の夜の星空上映会

開催日時: 8月12日(金)、13日(土)、14日(日)
会場:中央公園
入場者数:650名
上映作品:「RED LINE」「捜索者」「アブラクサスの祭」
内容:毎年恒例になった夏のイベント。YCAMの壁にスクリーンをはり、中央公園の芝生にゆったりと座って映画を観るイベント。今回は3回にわたって様々なジャンルの作品を上映、多くの観客を集めた。



©2010石井克人・GASTONIA・マッドハウス / REDLINE委員会

[6] 主な貸館事業

●インテリアコーディネーター協会総会・講演会

(主催) 山口県インテリアコーディネーター協会
開催日時:4月27日(水)

●蘭このみスペイン舞踏公演

(主催) 山口県洋舞連盟
開催日時:11月13日(日)

●NHK山口放送局開局70周年特番「スゴつぶ」

(主催) NHK山口放送局
開催日時:12月27日(火)

●シネ☆パラ2012

(主催)山口大学映画倶楽部
開催日時:平成24年3月14日(水)

[7] 施設利用状況

1 入館者数

月別内訳(名)			
4月	55,770	10月	65,728
5月	58,762	11月	62,612
6月	55,150	12月	55,083
7月	65,749	1月	56,662
8月	67,041	2月	63,818
9月	59,039	3月	49,180
合 計		714,594	

2 見学・視察者数

月別内訳(名)			
4月	207	10月	9
5月	31	11月	180
6月	50	12月	8
7月	30	1月	122
8月	50	2月	7
9月	68	3月	4
合 計		766	

3 施設使用状況

施設	開館日数	使用日数	使用率(%)
スタジオ A	309	129	41.7
スタジオ B	309	294	95.1
スタジオ C	309	223	72.2
創作・学習室	309	106	34.3
多目的室	309	133	43.0

[8] その他特記事項

1 アーカイブ事業

内容: 事業活動成果の冊子制作やプロジェクト毎の映像編集、CD制作などを実施。また、Webや館内閲覧コーナーを充実させ、過去のイベント内容の情報提供に努めた。

2 実習生受け入れ状況

●博物館実習(4名)
期間:8月5日～15日、8月10日～22日、11月24日～12月4日
内容:教育普及ワークショップ運営、アート展示設営



主な関連新聞記事



主な関連新聞記事







〈参考資料〉
山口情報芸術センターの活動成果

YCAM InterLabオリジナルプロダクション／対外効果

[アート部門]

渋谷慶一郎+池上高志「filmachine」

渋谷慶一郎と複雑系科学研究者の池上高志両氏によるコラボレーション作品。彼らが提唱する複雑系科学を応用した新しい音楽構成理論「第三項音楽」に基づいて緻密に作り上げられたコンピュータサウンドによる立体音響インスタレーションがフランスを巡回。

2006年8月9日-10月9日 YCAM
2011年3月10日-20日 Festival EXIT（クレティユ／フランス）
2011年3月24日-4月3日 Festival VIA（モブージュ／フランス）
2011年4月13日-8月14日 Gare Saint-Sauveur（リール／フランス）

坂本龍一+高谷史郎「LIFE- fluid, invisible, inaudible…」

世界的に活躍する音楽家の坂本龍一氏とアートグループ「ダムタイプ」の中心メンバーである高谷史郎氏がサウンドと映像による新たな表現の試みをコラボレーション作品として発表したオーディオビジュアルインスタレーション。

2007年3月10日-5月28日 YCAM
2011年4月2日-5月29日「Bethune 2011」（ペテュヌ／フランス）

newClear+アレッシオ・シルヴェストリン「skinslides」

ダンサーを永久保存するインターフェイスとして考案されたインタラクティブインスタレーション。サウンドを大友良英が手掛け、YCAM IntelLabが技術協力を行った。

2009年4月25日-8月31日 YCAM
2011年7月20日-9月20日「NJP Summer festival "21 Rooms"」（ナム・ジュン・バイク・アートセンター／龍仁／韓国）

三上晴子+市川創太「gravicellsー重力と抵抗」改訂版

2004年5月のYCAMでの滞在制作・初公開以来、東京、ベルリン、トリノをはじめ世界8カ国／12カ所を巡回し、メディアアートの代表的な作品のひとつとして、高い評価を得ている「gravicellsー重力と抵抗」をアップデートし、作品空間をよりダイナミックに使った新バージョンとして2010年に当館にて公開。その後、中国を巡回し再展示された。

2010年1月24日-5月9日 YCAM
2011年7月26日-8月21日「Translife - Media Art China 2011」（中国美術館／北京／中国）

三上晴子「Desire of Codes I 欲望のコード」

2010年に山口情報芸術センター[YCAM]にて委嘱制作し公開された、三上晴子による大規模なインタラクティブ・インスタレーション<欲望のコード>の新バージョンを、NTTインターコミュニケーションセンター[ICC]にて発表した。

2010年3月20日-2010年6月6日 YCAM
■「蠢く壁面」「巡視する複眼スクリーン」
2010年7月31日-9月5日 "TRUST"（Dortmund U/ドルトムント/ドイツ）
■「多視点を持った触覚的サーチアーム」
2010年8月5日-9月20日 "SPACE INVENTIONS"（Kunstlerhaus/ウィーン/オーストリア）
2011年10月22日-12月18日 ICC（初台／東京）

「大友良英 / ENSEMBLES/without records」[改訂新作]

2008年に実施した「大友良英/ ENSEMBLES」展5作品の内、「without records」[改訂新作]について水戸芸術館へ巡回。

2008年7月5日-10月13日 YCAM
2010年11月30日-2011年1月16日 大友良英「アンサンブルズ2010 - 共振」（水戸芸術館／水戸／茨城）
2012年3月9日-7月1日（ナム・ジュン・バイク・アートセンター／龍仁／韓国）

三上晴子「Eye-Tracking Informaticsー視線のモルフォロジー」

2人の体験者が、3次元空間内に可視化された自身の視線の動きを通じて、コミュニケーションや空間内のナビゲーションをおこなっていくという三上の90年代の代表作のひとつを最新の技術動向を反映し、YCAMで再制作したもの。Desire of Codesの関連展示として、NTTインターコミュニケーションセンター[ICC]で展示。

2011年12月4日-2012年3月25日 YCAM
2011年12月9日-12月18日ICC（初台／東京）

[パフォーマンス部門]

梅田宏明新作ダンス公演「Holistic Strata」

2011年2月19日-20日 YCAM
2011年3月10日-12日 EXIT-Festival（クレティユ／フランス）
2011年3月31日-4月1日 VIA Festival（モブージュ／フランス）
2011年6月9日 ARTROCK Festival（サン・プリュー／フランス）
2011年7月9日-10日 Julidans（アムステルダム／オランダ）
2011年8月25日-27日 Noorderzon Performing Arts Festival（フローニンゲン／オランダ）

白井剛×YCAMビデオダンス制作プロジェクト 「Choreography filmed:5days of movement」

2011年1月23日 YCAM
2011年9月19日 KYOTO EXPERIMENT 2011 プレイベント・上映会+アーティストトーク
会場:京都芸術センター（京都市／日本）

[教育普及部門]

モントリオールデジタルアート見本市 [IMDA] 招聘

国際的なデジタルアート界のネットワーク構築、活動紹介プレゼンテーション、カナダのアーティストを海外関係者へ紹介することを目的に、1997年から開催されている見本市へ、公立の文化施設としては唯一YCAMが招聘された。カナダや北米をはじめ、EU、アジア、ラテンアメリカの文化施設（公立/私立）や国際的なデジタルアートフェスティバルのディレクター、キュレーター、アーティスト、ジャーナリストなど関係者29名が招聘され、YCAMはその活動についてのプレゼンテーションを行った。
2011年5月5-6日（モントリオール／カナダ）

平成23年度
山口情報芸術センター事業報告書



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : information@ycam.jp
<http://www.ycam.jp>

〔発行〕平成24年9月

公益
財団法人 **山口市文化振興財団**
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : zaidan-info@ycfcp.or.jp
<http://www.ycfcp.or.jp/>